

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 028	提案機関名 畜産課
要望問題名 米の給与が豚肉の品質に及ぼす影響	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・国の水田フル活用事業により、全国的に飼料用米の利用が進んでいくことが見込まれる。 ・養豚農業振興法に基づき国策に沿った養豚として、米の給与（飼料米利用）がキーワードになる。 ・このような中、本県養豚協会でも米の給与及び給与量の増加が検討されている。 ・既存のブランド豚肉の品質に米の給与がどのような影響を及ぼすかについて検討する必要がある。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内 (①の調査については1年以内、②に附いては2～3年以内)
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考 神奈川県養豚協会が複数のブランド豚肉用の飼料を用い米給与群と非給与群とに分け肥育成績等の試験を行う。この豚肉を利用して、米の給与が豚肉の品質に及ぼす影響について検討する。試験豚として斉一性の優れたユメカナエルを用いることで、品種・系統間の差異は発生せず、検査データの信頼度も高まると考えられる。	
※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。	
回答機関名	神奈川県畜産技術センター
担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	
対応の内容等 畜産における飼料用米利用は食料農業農村基本法や養豚振興法において重要な位置づけとなっており、飼料自給率向上や飼料用米給与の肉質への効果、地域の耕畜連携の目的で利用する生産者が全国的に増えている状況となっています。神奈川県内では一部利用している生産者もおりますが、まだ取り組み事例は少なく、今後、活用されていく技術と考えています。 要望にあります(一社)神奈川県養豚協会が検討している飼料用米の実証について、当所も協力させていただき、本県の養豚経営に即した飼料用米の有効性や有効活用のための課題解決に取り組みたいと思います。	
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
備考	